

対外活動報告

大学等廃棄物処理施設協議会

1979年11月に国立大学廃液棄処理施設連絡会として発足、今年で10年目を迎える。文部省文教施設部指導課所管の団体として活動しており、1987年度は7月に金沢市で金沢大学の世話により廃棄物処理技術分科会、11月に東京大学の世話で横浜市において総会・研修会が開催され、本学からも両会合に教職員数名ずつが参加し、他大学と積極的に意見交換するなど有意義な成果を得た。

これらの分科会や研修会での技術報告や話題提供をもとに、同協議会の会報第五号が発刊されている。その目次を以下に示し、本学の環境管理センター関係者にフィードバックしておく。何かのご参考になれば幸いである。

目 次

ごあいさつ	大学等廃棄物処理施設協議会会長	稲本 直樹	1
特別寄稿			
	金属と生体	(金沢大) 宮崎 元一	3
	大学における環境問題	(大阪工事事務所) 霜田 昌	11
	人づくりのための哲学	(埼玉工大) 武藤 義一	
	(執筆担当) 白須賀公平, 玉浦 裕		19
	廃棄物処理施設における B 型肝炎及び AIDS の問題	(帝京大) 大井 玄	22
展望報告			
	大学処理施設間の人事交流の諸問題	(島根大) 橋谷 博	23
	廃液収集容器としてのポリエチレンの耐久性 (工学院大)	伊保内 賢	31
一般報告			
	処理を担当する技術者養成の諸問題 (日電環境エンジ)	岩崎 隆昌	37
	実験廃棄物用ポリ容器の運用と管理 (東大) 鈴木 良実, 白須賀公平		43
作業部会報告			
	食堂廃水における油分除去法の検討		
	厨房廃水部会 高月 紘, 来田村實信, 酒井 伸一		
	白須賀公平, 鈴木 良実		49
	廃液処理施設の作業環境		
	安全衛生部会 井勝 久喜, 中島 民江		
	村山 忍三, 正藤 英司		53
	廃液分析法の改善 ——特に水銀分析について——		
	分析計測部会 伊永 隆史, 伊沢美代子, 井勝 久喜		
	山田 悦, 丁子 哲治, 中川 千枝		
	原 由美子, 坂元 隼雄, 後藤 正志		57
	指針作成までの経緯とその展望	指針作成部会 白須賀公平	61
技術報告			
	廃蛍光灯中の水銀の簡易湿式回収法	(福井大) 古賀 満男, 佐藤秀左エ門	63
	有機廃液処理における水銀対策		
	(岡山大) 加瀬野 悟, 藤元 教尊		
	伊永 隆史, 高橋 照男		69
	地域自然環境に関する研究 ——汽水湖中海における窒素循環——		
	(島根大) 清家 泰		75
	地域自然環境に関する研究		
	——汽水湖中海における植物プランクトンの増殖促進要因——		
	(島根大) 近藤 邦男		81
	安全かつ円滑な廃液処理を行うための試み (その 1)		
	——金沢大学での廃液収集システムの概要——		
	(金沢大) 丁子 哲治, 中川 千枝, 平井 英二		87
	安全かつ円滑な廃液処理を行うための試み (その 2)		
	——廃液の事前検査について——		
	(金沢大) 中川 千枝, 丁子 哲治, 平井 英二		93
パネルディスカッション			
	「安全管理に関するディスカッション」総括		
	(岡山大) 伊永 隆史, (筑波大) 中村 以正		99
見学会報告			
	三友プラントサービス株式会社見学記		101

文部省科学研究費・重点領域研究「人間－環境系」

1986年度まで6年間にわたって助成を受けた「環境科学特別研究」検討班での『大学における廃棄物処理と環境科学教育』の研究成果に基づき、1987年度からは重点領域研究「人間－環境系」において、『不定期・不均質な排出特性を有する廃棄物の小規模排水処理システムの設計と評価』に関する次に示す組織の研究プロジェクトがスタートした。

初年度の研究成果をまとめ、G002 N32-03として研究成果集を印刷した。その目次を下記に示すが、ハイテクプロセスからの廃水処理への応用が期待されている。

重点領域研究 N32-03班組織

稲 本 直 樹 (東京大学環境安全センター・教 授)
白須賀 公 平 (東京大学環境安全センター・助教授)
村 山 忍 三 (信州大学環境安全センター・教 授)
高 月 紘 (京都大学環境保全センター・教 授)
伊 永 隆 史 (岡山大学環境管理センター・助 手)
高 橋 照 男 (岡山大学工学部・教 授)
中 村 以 正 (筑波大学応用生物化学系・教 授)
平 井 英 二 (金沢大学工学部・教 授)
正 藤 英 司 (広島大学中央廃液処理施設・助 手)
後 藤 正 志 (名古屋大学省資源エネルギー研究センター・助教授)

「不定期・不均質な排出特性を有する廃棄物の小規模排水処理システムの設計と評価」

目 次

まえがき	(岡山大) 伊永 隆史, 高橋 照男	1
1. 水酸化アルミニウムの凝集による有機酸・微量重金属混合系 廃液の処理プロセスの研究	(金沢大) 平井 英二, 丁子 哲治, (筑波大) 中村 以正, (岡山大) 高橋 照男, 伊永 隆史	7
2. 重金属塩含有廃液のフェライト化処理に関する研究	(京大) 来田村 實信, 高月 紘	21
3. 無シアン系実験廃液からのシアンの生成	(千葉大) 立本 英機, 鈴木 伸, 中川 良三	40
4. 厨房排水の油水分離に関する研究	(京大) 高月 紘, 酒井 伸一	44
5. 芸術系染料・顔料含有排水の活性炭吸着－共沈法による処理 プロセスの研究	(岡山大) 伊永 隆史, 高橋 照男	65
6. ハイテク廃液クロム酸－リン酸混合系の処理	(東大) 鈴木 良實, 白須賀 公平	79
あとがき	(東大) 稲本 直樹	86

岡山・香川環境資源懇話会

社団法人山陽技術振興会、岡山県、岡山大学環境管理センター、香川医科大学廃棄物処理施設などが中心となって進めていた『産・官・学』の情報交換および技術交換の場としての「岡山・香川環境資源懇話会」が今年6月に新しく発足した。この件については、昨年の本センター報第9号でも一部予告したが、岡山県と香川県には瀬戸大橋、新岡山空港、テクノポリスといったビッグプロジェクトが続き、しかも産業構造の転換にともない先端技術産業からの環境問題なども予見されるためか、この懇話会の主旨説明に行った企業の対応はかなり積極的で、“今何故環境か？”というムードは全くなく、むしろ“今こそ環境を！”という気運があったことをここに明記しておきたい。岡山県内企業のなかでも大企業では十分な対策がなされているが、中小企業ではいまだに十分とはいえないところも多く、県下に500以上ある特定事業場からはこの会に対しさまざまな期待が寄せられつつある。

以下に、参考までに同懇話会の規約および年間事業計画を掲載しておきますので、この会の主旨に賛同される方は環境管理センターまでお問い合わせください。

岡山・香川環境資源懇話会規約

(名称・所在地)

第1条 本会は、岡山・香川環境資源懇話会と称し、事務所を岡山市津島中3-1-1 岡山大学環境管理センター内に置く。

(目 的)

第2条 本会は、岡山・香川ならびに近隣諸県における環境資源の保全および廃棄物の処理（資源化を含む）に関する技術の向上とその理念・教育の啓蒙・普及をはかり、異業種間交流や先端技術開発を支援するとともに、あわせて産・官・学などの会員相互の理解を深めることを目的とする。

(事 業)

第3条 本会の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会および討論会
- (2) 講演会、講習会および見学会
- (3) その他

(会 員)

第4条 本会会員は、本会の目的に賛同する岡山・香川ならびに近隣諸県等に所在の次の会員をもって構成する。

- (1) 会社、工場、研究機関、学校、公共団体など
- (2) 個人
- (3) 本会事業を特別に賛助するもの

(入会・退会)

第5条 入会および退会は、第1条の事務所へ書面による届出をもって行うものとする。

(役員)

第6条 本会には次の役員をおく。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 幹 事 若干名
- (3) 会計監事 1 名

第7条 会長は総会の推薦により、これを推戴し、その他の役員は総会の推薦により、会長がこれを委嘱する。

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

第9条 幹事は、本会の業務の処理にあたる。必要に応じ、常任幹事をおくことができる。

第10条 会計監事は、会計の監査にあたる。

第11条 役員の任期は2年とする。ただし、留任をさまたげない。

(総 会)

第12条 総会は年1回とし、会長がこれを招集する。

第13条 総会では次のことを行う。

- (1) 事業、会計等の報告および承認
- (2) 役員の改選
- (3) 規約の変更
- (4) その他必要な事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長および幹事により構成し、必要に応じて会長が招集する。

第15条 幹事会は、事業を企画する。これを執行する常任幹事会は幹事会に準ずる。

(会 計)

第16条 本会の運営に必要な経費は、会費およびその他の収入をもってこれにあて、第1条の事務所において会計を行う。

第17条 団体会員の会費は年額10,000円、個人会員の会費は年額2,000円（ただし、学生は無料）とする。

第18条 本会の事業会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(附 則)

第19条 本規約は、昭和63年6月18日から施行する。

岡山・香川環境資源懇話会昭和63年度事業計画

1) 設立総会・記念講演会・懇親会

日 時：昭和63年 6 月18日(土)

場 所：桃花苑

内 容：(1)設立総会

(2)記念講演会

「環境科学と医学」

香川医科大学教授

中島 泰知 氏

「山陽技術振興会における環境保全と再資源化研究会の活動経過」

社団法人山陽技術振興会専務理事 天野 宗明 氏

(3)懇親会

2) R & Dサロン

話題提供：「多品種・少量生産時代の環境問題」岡山大学工学部教授 高橋 照男 氏

3) 工場（施設）見学会・討論会 11月

4) 環境技術講習会 2月

研究発表段階の新技术について紹介。企業の新装置・新システム等の紹介も含む。

5) 環境資源科学セミナー 2月

テキスト程度の内容で解説。水質・大気・悪臭・騒音・振動・法規制などのうち、全般にわたるのではなく限定された課題について、毎年講師を変えて行う。系統的に行う必要がある課題や話題性のある内容も適宜おりこみ、通常の公害講習会とは傾向を変える。

6) 研究会 随時

日産科学振興財団学術研究助成

1985年度から2年間にわたって実施された日産学術研究助成『大学等における多種少量有害廃棄物処理システムの最適化』に関する調査研究は、センター報9号でも一部紹介したように、大学等廃棄物処理施設協議会を母体とし岡山大学を幹事校として研究が行われた。そして、調査報告『大学等における廃棄物処理に関するアンケート調査報告書』（B5版;204ページ）および技術ガイドブック『大学等における廃棄物処理とその技術』（B5版;560ページ;章構成は下記の通り）をそれぞれの出版、所期の目的を達成し、3件からなる一連の調査研究を一応終了した。

今後は、これからの冊子が各大学の廃棄物処理関係者あるいは関心を持っている方々によって利用・充実され、さらに廃棄物処理施設を活用した環境科学教育のためのテキスト等の編集に生かされることが期待される。

また今回の研究成果をベースに、アジア諸国を中心とした「大学等における廃棄物処理に関する国際シンポジウム」開催や成書の刊行・出版なども計画されつつある。

大学等における廃棄物処理とその技術

大学等廃棄物処理施設協議会編

- 第1章 大学等における廃棄物処理
- 第2章 排出動態
- 第3章 廃棄物処理システム
- 第4章 無機系廃液の処理
- 第5章 有機系廃液の処理
- 第6章 実験系洗浄排水および生活系雑排水の処理
- 第7章 固形廃棄物の処理および大気汚染・騒音
- 第8章 処理技術の未開発な廃棄物の処理
- 第9章 管理運営
- 第10章 廃棄物処理の教育研究